

『大原社会問題研究所雑誌』 2019 年度総目次

- (1) 2009～2018 年度の総目次については各翌年度 4 月号を参照されたい。
- (2) 2008 年度の総目次については、605 号を参照されたい。
- (3) 『資料室報』 1 号～『大原社会問題研究所雑誌』 599・600 号（2008 年 11 月）までの総目次については、599・600 号を参照されたい。
- (4) なお、大原社会問題研究所 Web サイト (<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/oz/>) でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997 年 4 月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化、Web 上での公開を行っている。

2019 年 4 月号 No.726

【特集】第 31 回国際労働問題シンポジウム 持続可能な開発目標 (SDGs) とディーセント・ワーク	
特集にあたって	藤原千沙
第 107 回 ILO 総会の概要	田口晶子
政府の立場から	井上栄貴
労働者の立場から	伊古田隆一
使用者の立場から	森田清隆
アジアにおける開発と労働——グローバル市民社会の視点から	吉村真子
ミャンマーにおける SDGs 実現に向けた取り組み——実態と課題	中嶋 滋
アフリカの若者が主体になる SDGs に向けた取り組み ——ケニア・ソマリア・ガンビアでの事例	福林良典
パネルディスカッション	
参考資料	
■書評と紹介	
金美珍著『韓国「周辺部」労働者の利害代表 ——女性の「独自組織」と社会的連携を中心に』	李旼珍
マリリン・テイラー著／牧里毎治・金川幸司監訳 『コミュニティをエンパワメントするには何が必要か——行政との権力・公共性の共有』	樋口明彦
社会・労働関係文献月録	
『大原社会問題研究所雑誌』 2018 年度総目次	
月例研究会 芸能組織における争議のなかの日本フィル争議史料 大原社研日本フィル争議資料の由来と現状	徳永高志 中尾知彦
所報	2018 年 12 月

2019 年 5 月号 No.727

【特集】「朝鮮三・一独立運動 100 年」その歴史像の再検討——民族運動史の新たな可能性を探る (1)	
特集にあたって	愼蒼宇
朝鮮近現代史における 3・1 独立運動の位相	康成銀
朝鮮女性の視点から見た 3・1 独立運動	宋連玉
三・一独立運動と朝鮮の社会的排除	小川原宏幸
■論文	
女性新入社員の管理職志向を低下させる要因——パネルデータを用いた検証	島 直子
■書評と紹介	
石河康国著『向坂逸郎評伝——上巻 1897～1950／下巻 1951～1985』	鈴木裕子

飯田洋子著『九条の会——新しいネットワークの形成と蘇生する社会運動』	五十嵐仁
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 子どもの貧困対策をめぐる教育と福祉の交錯	畠中 亨
所報	2019年1月

2019年6月号 No.728

【特集】「朝鮮三・一独立運動100年」その歴史像の再検討——民族運動史の新たな可能性を探る(2)	
三・一運動における民衆のナショナリズム——二つの事例から	趙景達
植民地(征服/防衛)戦争の視点から見た朝鮮三・一独立運動	愼蒼宇
植民地責任論からみた1919年——民族自決と戦争責任	浅田進史
■論文	
移民第二世代の就学にみる社会的統合と排除——彼らの高校進学をめぐる	宮島 喬
■書評と紹介	
百木漠著『アーレントのマルクス——労働と全体主義』	橋爪大輝
宮川公男著『統計学の日本史——治国経世への願い』	菅 幹雄
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 企業別組合の公害問題への対応と住民運動との関係 ——富士市の公害問題を事例として	鈴木 玲
所報	2019年2月

2019年7月号 No.729

【特集】「人手不足」と外国人労働者	
特集にあたって	
日本社会の高齢化と外国人労働者の受け入れ——建設業・介護サービス業・農業の事例から	上林千恵子
建設産業秩序の再編の下での外国人労働者受け入れ拡大 ——入職・技能・処遇をめぐる新たな制度構築と諸課題	恵羅さとみ
介護準市場の労働問題と移住労働者	定松 文
農業の産業的特性と外国人労働者受入れの実際	軍司聖詞
■論文	
現代日本における移民の編入様式——家族を通じた分岐とジェンダー構造	高谷 幸
■書評と紹介	
李美淑著『「日韓連帯運動」の時代 ——1970-80年代のトランスナショナルな公共圏とメディア』	鄭根珠
今井貴子著『政権交代の政治力学——イギリス労働党の軌跡1994-2010』	近藤康史
武田晴人著『異端の試み——日本経済史研究を読み解く』	高嶋修一
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 史学史における日本政治史——分化の検討と現在の課題	米山忠寛
所報	2019年3月

2019年8月号 No.730

【特集】薬害スモン関係資料の整理と活用	
特集にあたって	清水善仁

スモンの会全国連絡協議会・薬害スモン関係資料公開の意義と課題	川田恭子
薬害アーカイブズは誰のためにあるのか——厚労省科研共同研究の経験から	藤吉圭二
薬害根絶のために記録の活用を ——スモンの会全国連絡協議会事務局長 辻川郁子氏に聞く	
大原社会問題研究所 100 周年記念展示 環境アーカイブズ特別展 「ノーモア・スモン和解調印から 40 年 資料でたどる薬害の原点」報告	川田恭子
■論文	
再論・「労働者の声」の筆者は誰か？	二村一夫
■資料紹介	
全造船機械関係資料について	榎 一江
■書評と紹介	
中澤秀雄／嶋崎尚子編著『炭鉱と「日本の奇跡」——石炭の多面性を掘り直す』	谷合佳代子
嶋田佳広著『住宅扶助と最低生活保障——住宅保障法理の展開とドイツ・ハルツ改革』	佐藤岩夫
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 「日本型市民社会」の持続と変容 ——1970 年代以降の消費者団体の発展過程を中心に	大和田悠太
所報	2019 年 4 月

2019 年 9・10 月号 No.731・732

【特集】大原社会問題研究所創立 100 周年・法政大学合併 70 周年記念シンポジウム 社会問題の現在	
特集にあたって	鈴木 玲
記念講演 大原社会問題研究所の 100 年	二村一夫
研究と運動をどのように切り結ぶのか 労働問題の視点から	上西充子
〃 環境問題の視点から	西城戸誠
〃 貧困問題の視点から	布川日佐史
〃 パネルディスカッション	
■論文	
東洋社会党をめぐる自由民権期の社会主義観	大田英昭
■資料紹介	
追加情報——『水平新聞』所蔵機関	中村美香
■書評と紹介	
阿部武司編著『大原孫三郎——地域創生を果たした社会事業家の魁』	山本長次
高野剛著『家内労働と在宅ワークの戦後日本経済——授産内職から在宅就業支援へ』	木本喜美子
小杉亮子著『東大闘争の語り——社会運動の予示と戦略』	荒川章二
中村理香著『アジア系アメリカと戦争記憶——原爆・「慰安婦」・強制収容』	金富子
Anthony Carew, <i>American Labour's Cold War Abroad: From Deep Freeze to Détente</i>	高瀬久直
法政大学大原社会問題研究所 2018 年度の歩み	
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 無料低額診療事業の歴史的検討	阿川千尋
所報	2019 年 5・6 月

2019年11月号 No.733

【特集】イギリスの福祉改革と〈排除〉	
特集にあたって	鈴木宗徳
緊縮期のワークフェア改革——ニューレイバーからキャメロンへ	二宮 元
福祉ショービニズムとコンディショナリティ ——イギリス連立政権期の政策と世論をめぐって	鈴木宗徳
イギリスにおけるEU移民の福祉受給とミドルクラスの排外主義	吉田公記
移民の統合と排除——イギリスにおける市民的統合の現状、課題と限界	高橋誠一
■論文	
厚生労働省社会・援護局長のキャリアパス分析	近藤貴明
■書評と紹介	
柳原恵著『〈化外〉のフェミニズム——岩手・麗ら舎読書会の〈おなご〉たち』	海妻径子
吉田幸恵著『社会的養護の歴史の変遷——制度・政策・展望』	津崎哲雄
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 戦時下の協調会——「社会政策研究会記録」を中心に	山本和重
所報	2019年7月

2019年12月号 No.734

【特集】経済学部の成立と日本の学知	
特集にあたって	榎 一江
東京帝国大学経済学部の創立と社会政策学	小野塚知二
京都帝国大学経済学部の教育研究活動と国家・社会	岡田知弘
大原社会問題研究所と初期社会調査	榎 一江
■論文	
リベラルな国家における難民管理の境界の構築 ——ドイツの難民に対する「歓迎文化」と排外主義の交錯の中で	昔農英明
■書評と紹介	
金孝淳著/石坂浩一監訳『祖国が棄てた人びと——在日韓国人留学生スパイ事件の記録』	高柳俊男
安藤丈将著『脱原発の運動史——チェルノブイリ、福島、そしてこれから』	本田 宏
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 『日本社会党・総評の軌跡と内実 ——20人のオーラル・ヒストリー』をめぐって	梅崎 修
所報	2019年8月

2020年1月号 No.735

【特集】働き方改革関連法の問題点と課題	
特集にあたって	沼田雅之
労働時間の絶対的上限規制について	細川 良
年次有給休暇の確実な取得制度の検討——立法趣旨と解釈上の課題の探求	藤木貴史
「同一労働同一賃金」法の意義と実際 ——「同一労働同一賃金」法は非正規労働者を救うか	沼田雅之
■論文	
地域別の競争環境の差異に基づく乗合バス運転手の賃金を決定する諸要素の分析	酒井達朗

■書評と紹介	
米山忠寛著『昭和立憲制の再建——1932～1945年』	有馬 学
湯澤規子著『胃袋の近代——食と人びとの日常史』	原山浩介
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 ギャラリートーク（展示解説）	榎 一江
所報	2019年9月

2020年2月号 No.736

【特集】東アジア福祉レジームとダブルケア（1）東アジア比較と計量分析	
特集にあたって	相馬直子・山下順子
東アジアにおける社会的リスクとしてのダブルケア ——日本・韓国・台湾・香港のケアレジーム比較分析	相馬直子・韓松花・山下順子・Kate Yeong-Tsyr Wang・Raymond K.H. Chan・宋多永
ダブルケア経験者の就業状態および負担感についての分析	上村一樹・中村亮介
■論文	
高度成長期における港湾産業の産業別交渉制度の成立要因 ——港運業労使の産業別組織への結集と流通革新をめぐる争議の分析を中心に	鈴木 力
■書評と紹介	
作田誠一郎著『近代日本の少年非行史——「不良少年」観に関する歴史社会学的研究』	鈴木智道
千田航著『フランスにおける雇用と子育ての「自由選択」——家族政策の福祉政治』	船橋恵子
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 キリスト教における「家族主義」への一考察——クィア神学の観点から	堀江有里
所報	2019年10月

2020年3月号 No.737

【特集】東アジア福祉レジームとダブルケア（2）構造的葛藤と制度的不正義	
ダブルケアと構造的葛藤——なぜダブルケアは困難なのか	山下順子・相馬直子
韓国における中高年女性のダブルケア負担と制度的不正義	宋多永・白暎欣／相馬直子訳
日本における中高年女性のダブルケアと制度的不正義 ——福祉政策と当事者の交渉過程に関する事例分析から	相馬直子・山下順子
■論文	
日本社会主義者からの決議と書簡・再論——コミンテルン創立大会とリュトヘルス	山内昭人
■読書ノート	
20世紀社会主義・革命運動史を21世紀にどう描くか ——河西英通著『「社共共同」の時代』に寄せて	加藤哲郎
■書評と紹介	
五十嵐仁・木下真志／法政大学大原社会問題研究所編 『日本社会党・総評の軌跡と内実——20人のオーラル・ヒストリー』	梅崎 修
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 深川正夫の労務管理思想とその実践 ——三井三池労務管理から大日本産業報国会参画へ	横山 尊
所報	2019年11月